

平成31年2月22日(金)

八幡小路

朝、7:00には八幡小路に太鼓の音がこだまする。朝の祈祷の合図なのか、はたまた地域に時をつける調べなのか、ほとんど学校から駅に下る時間帯なので、厳かな気分で歩きを早めることになる。

この時刻には、交通安全の指導員の方や、平一中の生徒指導の係りの先生が姿を見せており、挨拶もそこそこにして、平一小の坂を下っていく。いわき駅6:37分着の下り列車で来る生徒たちは、7:00前にはほとんど校門をくぐることになる。私が道すがら挨拶を交わすのは、学校に届くぐらいの時間帯である。平一小の坂を降りる頃には、上りの6:59分着の列車で着いた生徒たちが昇ってくる。

市川パン屋の甘い香りをかぎながら、市川のおばちゃんが配達車で出かける頃には、磐東線通学の生徒たちが城山下を歩いてくる。駅には、次の列車を待つ他校の生徒や、次の便で来る同級生を待つ本校生もちらほら見える。

駅の改札を過ぎ階段を降り、ラトブの北側からいわき民報社屋のわきの歩道を歩きながら、車道の車の列を垣間見る。7:20分になると、平窪方面に曲がる車が増えてくる。こ線橋を渡り、もう一度平一小裏を上るころには、一中生徒を送る車がたびたび止まり生徒を下ろす。

磐城高校生徒も、どこか坂のふもとまで送られてきて、車から降り、学校に集まってくるのが予想される。できれば毎日、駅から自分の足で通う生徒であってほしい。歩きながら、世の中の風景を垣間見て、様々な音を聞き洩らさず、香りの変化や風の冷たさなど、五感を研ぎ澄まし感じる生徒になってほしい。歩けば必ず体力も付く。7時間8時間のオペにも耐える体を作らなくてはならない。何が正しくて何が正しくなくて根拠を明確にして判断する力や、どこに蒙昧な人をだます仕掛けが隠されるのか見抜いていく力を育ててほしい。

裁判所脇から一中生徒と一小児童がひっきりなしに登校するので、挨拶を大きな声でする。どこのおじさん、いやお爺さんだと思っているかもしれないが、ようやく今頃は、大きな声で挨拶を返してくれるようになった。この地域のコミュニティの在り方として、挨拶できる子供が育ってほしいと心から願う。

八幡神社がこの道筋の一番高いところだ。湯ノ岳から水石山までの山の稜線が見える。道匠小路側に入ると道幅が極端に狭くなる。バスが来ると大ごとだ。いつかこの道は片道一方通行にならないかと真剣に考えてみたりする。

やがて磐城高校の学び舎が見えてくる。二本のメタセコイアの大きな木のシルエットが校舎から天に向かって伸びる。空気が変わる。やはり学校はいい。

天気がいいと幸せな気分だ。今日もまた一日が始まる。いい日になるといい。

